

第2号議案 令和6年度事業報告について

学校法人 鶴鳴学園

はじめに

令和6年度、長崎女子短期大学において、7年度の入学予定者数は109名、前年と総数は同数であるが、栄養士コースで1名減少、地域未来創生コース（旧ビジネス医療秘書コース）で1名増加、幼児教育学科は同数であったため、収容定員充足率は幼児教育学科で67%、生活創造学科で62.8%と厳しい結果となった。今後の更なる定員確保に向けた学生募集対策が急務となった。

長崎女子高等学校においては、令和6年度オープンスクールの参加者は減少したものの、最終的には、7年度の入学予定者数は117名、前年と比較し9名増加となり、3年ぶりに増加となった。今後も昨年の入学者増加となった検証をもとに募集活動の見直し等を行い、さらに効果的な募集活動を再構築する。

長崎女子短期大学附属幼稚園においては、短期大学幼児教育学科との連携を深め附属幼稚園としての特色を更に鮮明にして、園児・保護者の満足度向上、保育の質の向上に取り組み、他園との違いを明確にすることに努めてきた。

I. 事業の概要

1. 当該年度の主な事業

(1) 施設設備の整備（主なもの）

厳しい財政状況下であるが、令和6年度において、短大では全学用 Web サーバー更新工事、シロアリ駆除等、高校では体育館の床タラフレックス設置工事、冷暖房工事等、幼稚園では2台の幼稚園バス導入、遊戯室の床改修等、主に以下のような施設、設備の整備を図った。

<短期大学>

(単位：千円)

部 門	内 容	業 者	金 額	備 考
短大	全学用 Web サーバー更新工事	(株)イシマル	1,771	
〃	シロアリ駆除工事	(株)三和技研	242	

<学生寮>

(単位：千円)

部 門	内 容	業 者	金 額	備 考
学生寮	昇降機制御リニューアル工事	日立ビルシステム(株)	15,400	

〃	空調機更新工事(厨房1台、学生食堂3台)	空設(株)	2,090	
---	----------------------	-------	-------	--

<高等学校>

(単位：千円)

部 門	内 容	業 者	金 額	備 考
高 校	第 1 体育館床タラフレックス設置工事	(株) クリヤマ	24,200	
〃	第 2 体育館冷暖房設置工事、シャワー室ガス湯沸かし器更新工事	(株)西部ガス、(株)フジオカ	2,500	
〃	テニスコート人工芝・ネットポール改修・取り換え工事	(株)コーフ・フィールド	1,180	
〃	電話主装置他機器入替工事	(株)NTT西日本	3,850	
〃	教師用ノート型パソコン機器更新	(株)イシマル	2,530	

<幼稚園>

(単位：千円)

部 門	内 容	業 者	金 額	備 考
幼稚園	お遊戯室の床改修	竹田工務店（有）	2,068	
〃	電話機器の交換	NTT西日本ビジネスフロント(株)	509	
〃	幼稚園バス 1	FRC(株)	8,058	リース契約
〃	幼稚園バス 2	FRC(株)	7,580	購入

(2) 高大連携事業

① 高一 「短大体験学習」

日時：令和 6 年 9 月 10 日(火) 10:00～14:00

場所:短大

参加者 107 名

内容：各学科コースの体験授業（45 分）を 3 つ選択し受講する。

② 高二 「系列別体験学習会」

日時：令和 6 年 9 月 19 日(木) 13:30～16:00

場所:短大

参加者 58 名(くらし系列・しごと系列・こども系列)

＜体験学習内容＞

栄養士コース：「砂糖の性質を利用したキャラメル作り」

ビジネス・医療秘書コース：「ゲームで磨く論理的思考力と
コミュニケーション力」

幼児教育学科：「なりきって遊ぼう！劇遊び」

③ 高三 「ピアノ応援プラン」

日時：令和 6 年 8 月 22 日(木)・23 日(金)

場所：短大音楽室、ピアノ演習室

参加者 こども系列選択者 25 名

(3) 幼大連携事業

①長崎女子短期大学幼児教育学科 1 年生園内見学

日時：A クラス令和 6 年 5 月 17 日(火)、5 月 21 日(火)、6 月 18 日(火)

B クラス令和 6 年 5 月 14 日(火)、5 月 28 日(火)、6 月 25 日(火)

②長崎女子短期大学幼児教育学科 2 年生教育実習

日時：令和 6 年 6 月 3 日(月) ～ 6 月 14 日(金) 参加者 5 名

令和 6 年 9 月 30 日(月) ～ 10 月 11 日(金) 参加者 4 名

(4) 短大ゼミナール発表会の開催

令和 6 年度のゼミナール発表会を下記のとおり実施した。

○生活創造学科

ビジネス・医療秘書コース 令和 6 年 7 月 30 日(火) 13:00～16:10

栄養士コース 令和 7 年 1 月 29 日(水) 13:00～15:00

○幼児教育学科 令和 7 年 1 月 30 日(木) 9:40～15:20

(5) 地域との連携及び開放

令和 6 年度の公開講座は幼児教育学科とビジネス医療秘書コースが 2 講座ずつ、栄養士コースが 3 講座開催し、下表のとおり合計 7 講座を開講した。参加

率に関しては、定員に対する参加率が100%以上の講座は2講座。今年度も長崎新聞 NR7 月号での広告掲載などの積極的な広報活動により、約84%の参加率を残した。

○短大公開講座（令和6年度）

	日 時	講 座 名	担当者(敬称略)	募集数	参加数	参加率
1	7/28(日)	わくわくサマークラフト「親子で藍染め体験」	山中	12 組 24 名	28 名	117%
2	8/17(土)	調香体験・オリジナルアロマミスト作り アナタダケノオリジナルの香り	濱口 (株)クリーンマット	15 名	8 名	53%
3	9/28(土)	プロが教える 印象に残る動画撮影のテクニック	濱口 M-production 松本康平氏	15 名	13 名	87%
4	10/5(土)	長崎食育学講座① 災害食を知ろうー非常食品 体験と常備食品で作る料理ー	太田智	16 名	8 名	50%
5	11/18 (土)	一緒に遊びましょう ー遊びの大切さほか 学生とのふれあい	本村	10 組 20 名	64 名	80%
6	11/23 (土)	長崎食育講座② サツマイモ料理を作ってみよう	古賀	12 組 24 名	26 名	108%
7	11/30 (土)	長崎食育学講座③ ーつの生地から作る3種の惣菜パン	桑原	16 名	10 名	63%

(6) その他短期大学における主な取り組み

① FD 研修会

実施日:令和5年8月27日(火) 10:00~12:30

テーマ:「令和5年度自己点検評価報告書(簡易版)の作成について」

実施日:令和6年3月19日(火) 10:00~12:00

テーマ:「令和7年度からスタートする地域未来創成コースの概要について」
～コースの目指すものとその特色

② FD・SD合同研修会

実施日:令和6年9月12日(木) 11:00~12:00

テーマ:「令和8年度(第4評価期間)の認証評価に向けて」

③ SD 研修会

実施日:令和6年8月27日(火) 13:30~15:00

テーマ:「特別な支援を要する学生への対応について」

実施日:令和7年3月19日(火) 13:00~16:00

テーマ：「令和 6 年度部署別年次報告会」～根拠に基づく成果と課題と改善策～

④ 中高生限定料理教室「はじめて料理レッスン」

実施日

令和 6 年 9 月 28 日(土) 13:30～16:30 「生ドーナツとオールドファッション」

令和 6 年 10 月 19 日(土) 10:30～13:30 「ハローウィーン・パーティメニュー」

令和 7 年 2 月 8 日(土) 13:30～16:00 「バレンタイン 生チョコサンド」

⑤ 地元企業との産学連携商品開発プロジェクト

企画者 : 生活創造学科ビジネス医療秘書コース2年生

協力企業 : (株)デザイン・スーパーマーケット、(株)クリーンマット、(株)石丸文行堂

商品名 空間用アロマミスト「聖夜のしずくKAKUMELsummer」

⑥ 外部評価委員を招いての自己点検評価委員会の開催

日時：令和 7 年 3 月 28 日(金) 13:00～15:00

○外部委員 4 名

・天本 俊太氏 (社会福祉法人みのり会 理事長)

・崎永麻実子氏 (崎永海運(株)常務取締役)

・岩橋 英夫氏 (長崎県立長崎明誠高等学校 校長)

・斎藤絹子氏 (NBC長崎放送(株)フリーアナウンサー)

○説明事項

・令和 6 年度学長運営方針について

・令和 6 年度の取り組み及び実績等について

入学者数、在籍者数、退学者数、退学率等について

学生募集について

就職支援について

学科・コースの特色ある取り組み及び実績について

(7) 高等学校における主な取り組み

① フューチャーナビゲーション

日時：令和 6 年 6 月 21 日(金)

参加者：2 年生

② 長崎地区美容サロン

期 間：令和 6 年 7 月 4 日(木)、7 月 11 日(木)

対象者：2、3 年美容コース生徒

3 年生 14 名、2 年生 18 名 計 32 名

③ 韓国文化語研修

期 間：令和 6 年 8 月 6 日(日)～8 月 9 日(水)

対象者：インターショナルコース 参加生徒 13 名 引率 2 名

平和学習 8 月 9 日(水) 学年別平和学習

④ 性教育講話

1年生:令和 6 年 9 月 27 日(金) 2年生:令和 6 年 9 月 20 日(金)

3年生:令和 6 年 7 月 12 日(金)

⑤ 職員研修(諫早自然の家)

期間：令和 6 年 8 月 2 日(金) 参加者5名、若手職員研修

令和7年3月13日(木)、3月18日(火) 新入生研修のための事前研修

⑥ 系列成果発表会

日時：令和 7 年 1 月 31 日 (金)

場所：各系列の発表を動画にまとめ各教室で視聴した。

参加者：発表者（各系列ごとに発表（2 年生）及び系列代表者(3年生)

(8) 附属幼稚園における主な取り組み

① 子育て支援事業「わくわくクラブ」の実施

② プレ入園 2 歳児教室「のびのびクラス」の実施

③ 基本的生活習慣の定着

④ 健康指導(手洗い、うがい等)と食育指導(野菜栽培・食事マナー等)

⑤ 保護者アンケートの実施

⑥ 学園内の連携強化と職場内の活性化

⑦ 防犯訓練・避難訓練の年 3 回ずつの実施

2. 入学志願者数、受験者数、合格者数、入学者数(令和 6 年度入試)

<短期大学：入学定員 170 名>

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	内長崎女
学校推薦型選抜	93	93	93	93	36
総合型選抜 1 期	4	4	4	4	0
総合型選抜 2 期	5	5	4	3	2
総合型選抜 3 期	5	5	5	5	1
大学入学共通テスト	7	7	7	4	0

一般選抜 1 期	0	0	0	0	0
一般選抜 2 期	0	0	0	0	0
社会人選抜	0	0	0	0	0
合 計	114(111)	114(111)	113(111)	109(109)	39(25)

合計欄()は前年度分

< 高等学校：入学定員 125 名 >

入試	試験	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
特別入試	推薦試験	88	88	88	88
	専願試験	25	25	20	20
	計	113	1113	108	108
	併願試験	65	63	56	6

一次入試	一次試験	22	17	12	2
二次入試	二次試験	1	1	1	1
合 計		201 (216)	194 (206)	177 (198)	117 (107)

合計欄()は前年度分

< 幼稚園：収容定数 110 名 >

	年少少 (満 3 歳児)	年少 (3 歳児)	年中 (4 歳児)	年長 (5 歳児)	計
進 級 児	—	1	15	29	45
転入・入園児	—	9	0	1	10
合 計	—	10(17)	15(29)	30(25)	55(71)

合計欄()は前年度分

3. 学生・生徒の就職・進学状況(令和 6 年度卒業生)

< 短期大学 >

令和 7 年 3 月 31 日現在

学科・コース	卒業生数 (A)	就職希望 (B)	就職決定 (C)	進学	未定 その他	就職率 C/B	就職率 C/A
栄養士	33	30	28	0	2	93.3%	84.8%
ビジネス・医療	18	17	16	0	1	94.1%	88.8%
幼児教育	66	63	63	0	0	100%	95.4%
合計	117	110	107	0	3	97.2%	91.4%

＜高等学校＞

令和 7 年 3 月 31 日現在

内 訳	卒業生数	決 定	未 定	決定率	備 考
進 学	85	85	0	100.0%	
就 職	42	40	2	95.2%	
合 計	127	125	2	98.4%	

Ⅱ. 財務の状況(3 カ年の収支状況)

1. 事業活動収支計算書(令和 4 年度～令和 6 年度)

○収入の部

(単位:千円)

科 目	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
学 生 生 徒 等 納 付 金	520,512	476,849	406,555
手 数 料	5,573	4,970	4,399
寄 付 金	1,032	31	74,003
補 助 金	260,108	242,500	293,983
付 随 事 業 収 入	67770	62,158	51,790
雑 収 入	20,587	15,884	18,013
退職金財団受入金収入	2,547	42,169	103,169
教育活動収入合計	878,129	844,561	951,912

○支出の部

人 件 費	477,982	491,714	497,747
退 職 金	3,048	63,548	185,388
退職給与引当金繰入額	0	0	0
教 育 研 究 経 費	308,376	290,246	321,125
管 理 経 費	138,481	135,459	126,673
借 入 金 等 利 息	0	0	0
徴 収 不 能 額 等	165		477
教育活動支出の部合計	997,884	980,967	1,131,410
教育活動収支差額	△49,923	△136,406	△179,498
教育活動外収支差額	12,599	12,445	12,384
特 別 収 支 差 額	1,166	7,131	544
基本金組入前収支差額	△36,158	△116,830	△166,570
基本金組入額合計	△8,686	△14,082	△9,135
当 年 度 収 支 差 額	△44,844	△130,912	△175,705
前年度繰越収支差額	△1,241,308	△1,286,152	△1,417,064

基 本 金 取 崩 額	0	0	6,4600
翌年度繰越収支差額	△1,286,152	△1,417,064	△1,586,309

※令和 6 年度、収入は、学生生徒等納付金の減少、寄付金、補助金の増加。一方、支出は前年比増加。教育活動収支差額で、令和 5 年度△136,406 千円、令和 6 年度△179,498 千円、基本金組入後の当年度収支差額では、令和 5 年度△130,912 千円、令和 6 年度△175,705 千円と支出超過が拡大した。

また、令和 6 年度の翌年度繰越収支差額は△1,586,309 千円となった。

2. 資金収支計算書(令和 4 年度～令和 6 年度)

○収入の部

(単位:千円)

科 目	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
学生生徒等納付金収入	520,512	476,849	406,555
手 数 料 収 入	5,573	4,970	4,399
寄 付 金 収 入	1,479	460	74,142
補 助 金 収 入	260,108	244,028	294,128
資 産 売 却 収 入	1,110	8,872	1,272
受取利息・配当金収入	12,599	12,445	12,384
付 随 事 業 収 入	67,770	62,158	51,790
雑 収 入	12,400	7,851	6,880
退職金財団受入金収入	2,547	42,169	103,169
小 計 ①	884,098	859,802	954,719
前 受 金 収 入	114,994	96,415	83,094
そ の 他 の 収 入	75,372	25,293	25,363
資金収入調整勘定	△132,732	△156,504	△206,887
前年度繰越支払資金	1,575,488	1,684,464	1,617,779
収 入 の 部 合 計	2,517,220	2,509,470	2,502,068

○支出の部

人 件 費 支 出	477,982	491,714	497,747
退 職 金 支 出	3,048	63,548	185,388
教 育 研 究 経 費 支 出	193,603	184,502	216,482
管 理 経 費 支 出	122,324	17,7264	109,616
施 設 関 係 支 出	6,152	9,416	7,163
設 備 関 係 支 出	20,801	9,639	29,739
小 計 ②	823,910	876,545	1,046,135
当年度収支差額 ①－②	60,188	△16,743	△91,416

資 産 運 用 支 出	8,401	14,053	7,780
そ の 他 の 支 出	29,937	27,435	26,426
資 金 支 出 調 整 勘 定	△29,492	△26,342	△42,144
翌年度繰越支払資金	1,684,464	1,617,779	1,463,871
支 出 の 部 合 計	2,517,220	2,509,470	2,502,068

※令和 6 年度は、当年度収支差額△91,416 千円、翌年度繰越支払資金は前年度より 153,908 千円減の 1,463,871 千円となった。

3. 貸借対照表(令和 4 年度～令和 6 年度)

○資産の部

(単位:千円)

科 目		令和 4 年度末	令和 5 年度末	令和 6 年度末
資 産	固定資産	5,179,229	5,073,718	4,983,805
	有 形 固 定 資 産	3,837,814	3,734,505	3,650,129
	特定資産・その他固定資産	1,341,415	1,339,213	1,333,676
	流動資産	1,698,359	1,659,660	1,574,215
	合 計	6,877,588	6,733,378	6,558,020

○負債の部・基本金の部・繰越収支差額の部

科 目		令和 4 年度末	令和 5 年度末	令和 6 年度末
負 債	固定負債	216,556	208,523	200,560
	流動負債	146,099	126,752	125,927
	計	362,655	335,275	326,487
基 本 金		7,801,085	7,815,167	7,817,842
繰越収支差額		△1,286,152	△1,417,064	△1,586,309
純資産合計		6,514,933	6,398,103	6,231,533
負債及び純資産合計		6,877,588	6,733,378	6,558,020

※資産総額は、令和5年度は前年度より 144,210 千円減少。

流動資産については、令和4年度は前年度より 55,958 千円増加、令和5年度においては前年度より 38,699 千円減少した。

Ⅲ. 法人の概要

1. 学校法人 鶴鳴学園

所在地:〒850-0823 長崎市弥生町 19 番 1 号

理事長:橋本 剛

2. 設置する学校・学部・学科等及び学生・生徒・園児数(令和6年5月1日付)

(1)長崎女子短期大学 所在地:〒850-0823 長崎市弥生町 19 番1号

学長:橋本 剛

学科・コース	入学定員	収容定員	1 年生	2 年生	在籍合計
生活創造学科	70	140	46	52	98
(栄養士コース)	(40)	(80)	(31)	(33)	(64)
(ビジネス医療秘書コース)	(30)	(60)	(15)	(19)	(34)
幼児教育学科	100	200	68	71	139
合 計	170	340	114	123	237

(定員充足率:69.7%)

※令和3年度入学生より、生活創造学科2コースの定員変更。

栄養士コース 入学定員 60名から40名へ

ビジネス医療秘書コース 入学定員 40名から30名へ

両コース合計 入学定員 100名から70名へ

令和5年度の収容定員

生活創造学科 1 年生 70名 2年生 70名 計140名

幼児教育学科 1年生 100名 2年生 100名 計200名

総計340名

(2)長崎女子高等学校 所在地:〒850-0834 長崎市上小島 1 丁目 11 番 8 号

校長:後藤 慶太

学 科	入学定員	収容定員	1 年生	2 年生	3 年生	在籍合計
普通科	125	375	107	105	128	340

(定員充足率:90.7%)

(3)長崎女子短期大学附属幼稚園 所在地:〒850-0823 長崎市弥生町 19 番 2 号

園長:大原万里亜

区分	収容定数	3 歳児	4 歳児	5 歳児	在籍合計
3～5 歳児	110	17	29	25	71

3. 理事・監事＜令和 6 年度＞

理事・監事	氏 名	現 職 等
理事長	橋本 剛	理事長兼短大学長
理 事	小林 秀顕	(株)稲佐山観光ホテル代表取締役社長
理 事	後藤 慶太	長崎女子高等学校校長
理 事	大原 万里亜	長崎女子短期大学付属幼稚園園長
理 事	横田 哲	(一社)長崎県労働基準協会専務理事
理 事	河野 銀子	九州大学教授
理 事	小坂 文乃	日比谷松本楼 代表取締役社長
理 事	大宮 綾佳	(株)グローバルトラストネットワークス
監 事	河野 隆之	長崎新聞社クロスメディア編集部長
監 事	一ノ瀬 博人	一ノ瀬小川税理士事務所代表

4. 理事会の開催状況

開催年月日	主な議案	出席数
令和 6 年 5 月 27 日	① 令和 5 年度予算の補正(案)について ② 令和 5 年度事業報告について ③ 令和 5 年度決算報告について ④ 令和5年度決算確定に伴う令和 6 年度予算の補正(案)について ⑤ 改正私立学校法に基づく寄付行為変更について ⑥報告事項 ・小島奨学基金の運営状況について ・部門別現況報告について	理事 7 名 監事 2 名
令和 6 年 9 月 27 日	① 理事(評議員会選任理事)の推薦について ② 理事の選任について ③ 監事候補者の選任について ④ 公用車の売却について ⑤ 報告事項 ・理事(評議員会選任理事)の選任及び再任について ・評議員会における監事就任同意について ・部門別現況報告について	理事 7 名 監事 2 名

令和6年10月1日	① 理事長の再任について	理事 6 名 監事 1 名
令和6年12月18日	① 長崎女子短期大学教員の昇任人事(案)について ② 長崎女子短期大学の学則改正(案)について ③ 報告事項 ・予算執行状況について ・部門別現況報告について	理事 6 名 監事 2 名
令和7年2月19日	① 鶴鳴学園退職金支給内規改定(案)について	理事 8 名 監事 1 名
令和7年3月21日	①学園人事について ②評議員(理事会推薦の法人職員)の推薦について ③ 前本部長への退職調整金について ④ 令和6年度予算の補正(案)について ⑤ 中期計画の改定案について ⑥ 令和7年度事業計画(案)について ⑦ 令和7年度予算(案)について ⑧ 寄付行為の一部改正について ⑨ プロジェクトチームの立ち上げについて ⑩報告事項 ・現況報告について	理事 6 名 監事 2 名

5. 評議員 17 名(欠員なし)

6. 評議員会の開催状況

開催年月日	主な議案	出席数
令和6年5月27日	① 令和5年度予算の補正(案)について ② 令和5年度事業報告について ③ 令和5年度決算報告について ④ 令和5年度決算確定に伴う令和6年度予算の補正(案)について ⑤ 改正私立学校法に基づく寄付行為変更について ⑥報告事項 ・小島奨学基金の運営状況について ・部門別現況報告について	評議員 15 名 監 事 2 名

令和6年9月27日	① 理事(評議委員会選任理事)の選任及び再任について ② 理事会選出監事候補者の監事就任同意について ③ 報告事項 ・理事の選任について ・評議員会人気の延長にについて ・部門別現況報告について	評議員 14 名 監 事 2 名
令和6年12月18日	① 長崎女子短期大学教員の昇任人事(案)について ② 長崎女子短期大学の学則改正(案)について ③ 報告事項 ・部門別現況報告について ・予算執行状況について	評議員 14 名 監 事 2 名
令和7年3月21日	① 学園人事について ② 評議員(理事会推薦の法人職員)の推薦について ③ 前本部長への退職調整金について ④ 令和6年度予算の補正(案)について ⑤ 中期計画の改定案について ⑥ 令和7年度事業計画(案)について ⑦ 令和7年度予算(案)について ⑧ 寄付行為の一部改正につい ⑨ プロジェクトチームの立ち上げについて ⑩ 報告事項 ・現況報告について	評議員 14 名 監 事 2 名

7. 学園合同会議

学園合同会議は、理事長の諮問会議であり、学内理事と監事及び各部門の幹部職員により構成され、定例的に開催されている。ここでは学園(理事会)と短大・高校・幼稚園の教学が一体となって問題意識の共有を図るとともに、日常的な学生・生徒等の動向あるいは保護者からの要望等についても情報を共有する。また、理事会提案事項等の調査研究、企画立案、調整を行うなどの機能も有している。

○構成員

構成員	理事長、学園長、相談役、監事、短大学長、高校校長、幼稚園長、法人本部長、法人本部次長、短大事務局長、高校事務長
-----	---

○学園合同会議開催状況

	開催年月日	主な議案・報告事項
第1回	令和6年4月19日	① 部門別現況報告について
第2回	令和6年5月22日	①5月27日開催の理事会・評議員会における議案及び報告事項について ② 報告事項 ・令和5年度小島奨学基金の運営状況について ・部門別現況報告について
第3回	令和6年6月19日	① 部門別現況報告について
第4回	令和6年7月17日	① 令和6年度予算の執行状況について ② 部門別現況報告について
第5回	令和6年9月18日	① 令和6年度第2回理事会・評議員会資料について ② 報告事項 ・ 部門別現況報告について
第6回	令和6年11月13日	① 報告事項 ・ 部門別現況報告について
第7回	令和6年12月11日	① 報告事項 ・12月理事会・評議員会の内容について ・部門別現況報告について
第8回	令和7年1月21日	① 報告事項 ・ 部門別現況報告について
第9回	令和7年2月19日	① 報告事項 ・ 部門別現況報告について
第10回	令和7年3月17日	① 3月21日開催の理事会・評議員会における議案について ② 報告事項 ・ 部門別現況報告について

8. 教職員(令和6年5月1日付)

		理事長・学園長 相談役	短大	高校	幼稚園	本部	合計
教 員	専任		16	17	7		40
	特専・常勤		4	11			15
	非常勤		34	10			44
職 員	専任	3	17	4	4	4	32
	非常勤		3	1	4		8
合 計		3	74	43	15	4	139

9. 建学の理念・教育目標

(1) 建学の精神

－ 鶴九阜に鳴きて声天に聞こゆ －

中国の古典「詩経」の小雅・鶴鳴篇の中の一節で、本学園の建学の精神である。鶴は、人に知られない山奥の沢辺で鳴いても、その声は遠くまで達するという意味であり、この詩句には深い人間的意味が込められている。

社会の中で人に知られなくても、地味だが現実に根ざして誠実に生き、学びつづけている人は、深い谷間で鳴く鶴の声が、やがて天の高みまで響くように、必ず人々から高く評価されるようになるということである。

本学園では、深い誠実な生き方を示す「至誠」を基本として、人間教育を大切にし、「品性」を涵養する学園を創造しつづけている。

(2)短大の教育理念・教育目標・学位授与の方針

○教育理念

創立以来、輝く女子教育の伝統と歴史の上にたち、建学の精神に基づいて、深い学理の探求と優れた技術の練磨とによって、社会の平和と幸福の増進に寄与し、自立性をもつ現代女性の育成を使命とする。

○教育目標(学訓):「尽心・創造・実践」

尽心・創造・実践は、建学の精神と教育理念に基づいて生まれたものである。即ち、常に至誠の心をもって事に当たり、「もの・こと」の本質を見つめつづけ、古き慣習にとらわれず、より良きもの、より高きものを創ることに努め、かつこれを単なる理念にとどめることなく実践することを意味する。

○学位授与の方針

教育目標(学訓)と学修成果の到達目標に基づいて開講されている教育課程の科目を履修し、学則に規定する成績評価の基準で卒業に必要な単位を修得した者。これにより社会に貢献できる資質を身につけた者に、短期大学士の学位を授与する。

(3)高校の校訓・教育方針・教育目標

○校訓:「真心・創意・共生」

○教育方針

創造的意志を大切にし、豊かな教養と人間性を育むとともに国際的視野に立ち、共に生きる思いやりの心を有する女性の育成を目指す。

○教育目標

- ①生命の尊さを学び、優しい心を育てる。
- ②自然と環境を愛し、人間尊重の精神を育てる。
- ③清らかな心を育て、品性の向上に努める。
- ④基本的生活習慣を確立させ、精勤を奨励する。
- ⑤学業を大切にし、進路目標の達成に努める。
- ⑥個性を伸ばし、感性豊かな表現力を育てる。
- ⑦ねばり強く取り組む気力・体力を育てる。
- ⑧校内の美化と地域・社会への奉仕に努める。
- ⑨生徒会活動や部活動の活性化に努める。
- ⑩多文化との交流を深め、国際的視野を広める。

(4)附属幼稚園の教育目標

豊かな学園環境の中で、たくましく、やさしい、思いやりの心を大切に育てる。

- いのちを大切に「ありがとう」の言える子ども
- 明るく元気にあいさつのできる子ども
- 表現豊かで創るよろこびをもつ子ども
- 友だちと仲よく遊べる子ども
- あきらめずやりぬこうとする子ども

10. 学園の沿革

年 月	事 項
1896(明治 29)年 10 月	長崎女子学院を創立(市内出来大工町 27) 新潟県出身の笠原田鶴子が、欧米視察のため長崎に立ち寄った折、外国との交流のある長崎でありながら意外と女性の地位が低い

	ことを痛感し、欧米視察を断念して、女子教育に情熱を燃やすことを決意した。 教師4名、生徒2名でのスタートであった。
1901(明治 34)年 4 月	伊良林町 77 番戸に移転、校名を「鶴鳴女学校」と改称 教師 8 名、生徒 50 名 「鶴鳴」の由来は、中国の詩経「鶴九臯に鳴いて声天に聞こゆ」の句による。また創立者笠原田鶴子の名に因んだものであった。
1906(明治 39)年 3 月	原田豊一第2代校長に就任
1912(明治 45)年 4 月	「鶴鳴実科高等女学校」と改称、定員 250 名
1918(大正 7)年 3 月	原田アサ第3代校長に就任
1920(大正 9)年 5 月	「鶴鳴高等女学校」に改称
1921(大正 10)年 2 月	校舎を現在地の上小島に移転
1925(大正 14)年 1 月	原田アサ校長、ロンドン留学(昭和3年帰国)
1947(昭和 22)年 4 月	鶴鳴中学校設置
1948(昭和 23)年 4 月	学制改革で「鶴鳴女子高等学校」と改称(普通科)
1951(昭和 26)年 3 月	学校法人鶴鳴学園と組織変更 原田アサ初代理事長に就任
1951(昭和 26)年 4 月	「商業科」を増設
1952(昭和 27)年 4 月	鶴鳴幼稚園が高校敷地内に開園、原田アサ初代園長に就任
1959(昭和 34)年 10 月	鶴鳴中学校廃止
1960(昭和 35)年 6 月	原田鶴代第 2 代理事長に就任
1960(昭和 35)年 12 月	原田寅次郎第4代校長に就任
1960(昭和 35)年 12 月	原田寅次郎鶴鳴幼稚園第2代園長に就任
1966(昭和 41)年 4 月	鶴鳴女子短期大学開学(家政科) 原田寅次郎初代学長に就任
1966(昭和 41)年 4 月	旭が丘鶴鳴幼稚園開園(弥生町) 原田寅次郎初代園長に就任
1966(昭和 41)年 10 月	学園創立 70 周年記念式典を举行
1967(昭和 42)年 4 月	短大の家政科を家政専攻と食物栄養専攻に分離増設
1969(昭和 44)年 4 月	鶴鳴女子短期大学を長崎女子短期大学に改称
1970(昭和 45)年 4 月	短大の家政科家政専攻を家政専攻と被服意匠専攻に分離増設
1970(昭和 45)年 6 月	短大の学生募集低迷のため次年度の学生募集停止の決定をなす
1970(昭和 45)年 11 月	短大の学生募集再開
1970(昭和 45)年 11 月	長岡達第2代学長に就任
1970(昭和 45)年 12 月	川崎周之第5代校長に就任
1970(昭和 45)年 12 月	法人本部を設置

1971(昭和 46)年 4 月	原田慶子鶴鳴幼稚園第3代園長に就任
1971(昭和 46)年 8 月	原田延介第3代理事長に就任
1972(昭和 47)年1月	長岡達旭が丘鶴鳴幼稚園第2代園長に就任
1972(昭和 47)年1月	川崎周之鶴鳴幼稚園第4代園長に就任
1973(昭和 48)年 4 月	短大に幼児教育学科を増設
1973(昭和 48)年 4 月	原田延介鶴鳴幼稚園第5代園長、旭が丘鶴鳴幼稚園第3代園長に就任
1975(昭和 50)年 10 月	学園創立 80 周年記念式典を挙行 初代理事長原田アサ胸像建立
1977(昭和 52)年 9 月	短大体育館が完成
1978(昭和 53)年 4 月	藤田源次郎第6代校長に就任
1979(昭和 54)年 1 月	短大に新学生寮「若竹寮」完成
1979(昭和 54)年 4 月	原田延介第3代学長に就任

1979(昭和 54)年 4 月	原田慶子学園長に就任
1980(昭和 55)年 4 月	太田多美子鶴鳴幼稚園第6代園長に就任
1980(昭和 55)年 4 月	山川雅雄旭が丘鶴鳴幼稚園第4代園長に就任
1982(昭和 57)年 4 月	短大の家政学科家政専攻と被服意匠専攻を統合し生活文化専攻を新たに設置
1983(昭和 58)年 4 月	稲永侑三旭が丘鶴鳴幼稚園第5代園長に就任
1984(昭和 59)年 3 月	旭ヶ丘鶴鳴幼稚園の園舎が短大敷地内に新築移転
1984(昭和 59)年 4 月	稲永侑三鶴鳴幼稚園第7代園長に就任
1985(昭和 60)年 4 月	長谷川信第4代学長に就任
1985(昭和 60)年 4 月	長谷川信第7代校長に就任
1985(昭和 60)年 10 月	学園創立 90 周年記念式典を挙行
1988(昭和 63)年 4 月	短大家政学科を生活科学科に生活文化専攻を生活情報専攻に改組
1988(昭和 63)年 4 月	法人本部を短大内に移転
1990(平成2)年 4 月	菊谷元資第5代学長に就任
1990(平成2)年 4 月	前田英昭第8代校長に就任
1993(平成 5)年 2 月	高校の校舎・体育館の外壁全面改装工事完了
1994(平成6)年 4 月	江副功第9代校長に就任
1994(平成6)年 4 月	前田英昭鶴鳴幼稚園第8代園長、旭が丘鶴鳴幼稚園第6代園長に就任
1994(平成 6)年 10 月	短大の新校舎完成(100 周年の先駆け工事)

1995(平成 7)年 4 月	中西弘樹第6代学長に就任
1996(平成8)年 10 月	学園創立 100 周年記念式典 記念事業として高校第二体育館新築・グラウンド整備工事が完成
1997(平成 9)年 4 月	鶴鳴女子高等学校を長崎女子高等学校に改称 進路別コースがスタート
1997(平成 9)年 4 月	鶴鳴幼稚園を長崎女子短期大学附属第一幼稚園に、旭が丘鶴鳴幼稚園を長崎女子短期大学附属第二幼稚園に改称
1998(平成 10)年 4 月	田中正明第 10 代校長に就任
2000(平成 12)年 4 月	田中正明第7代学長に就任(校長兼務)
2000(平成 12)年 4 月	柳原邦弘長崎女子短期大学附属第一幼稚園第9代園長、第二幼稚園第7代園長に就任
2001(平成 13)年 4 月	短大の生活科学科に生活福祉専攻(介護福祉士養成)を設置
2002(平成 14)年 4 月	犬塚光男第 11 代校長に就任
2004(平成 16)年 4 月	原田延介理事長 第 12 代校長を兼務(犬塚光男副校長) 長崎女子高等学校「商業科」を廃止 長崎女子高等学校入学定員変更(500→200)
2004(平成 16)年 4 月	長崎女子短期大学附属第一幼稚園と第二幼稚園を統廃合し、長崎女子短期大学附属幼稚園に統一(第一幼稚園休園)
2005(平成 17)年 4 月	犬塚光男長崎女子短期大学附属幼稚園第 10 代園長に就任
2005(平成 17)年 9 月	短大1号館外壁全面改修工事完了 短大校舎と学生寮食堂連絡通路工事完了
2005(平成 17)年 10 月	財団法人短期大学基準協会の第三者評価訪問調査 10 月 20 日・21 日
2006(平成 18)年 3 月	財団法人短期大学基準協会の第三者評価において「適格」認定
2006(平成 18)年 4 月	馬場正典第 13 代校長に就任
2007(平成 19)年 4 月	長崎女子高等学校入学定員変更(200 名→170 名)
2008(平成 20)年 4 月	原田雄司副理事長就任
2008(平成 20)年 4 月	江副功第8代学長に就任
2008(平成 20)年 4 月	柳川伸一第 14 代校長に就任
2009(平成 21)年 6 月	奈良県の奈良佐保短期大学と相互評価締結について調印
2010(平成 22)年 4 月	短大の生活福祉専攻を「介護福祉専攻」に名称変更
2010(平成 22)年 4 月	短大が奈良佐保短期大学と相互評価を実施
2010(平成 22)年 8 月	短大が文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラム」採択
2011(平成 23)年 3 月	長崎女子短期大学附属第一幼稚園廃園

2011(平成 23)年 3 月	高校第一体育館・短大学生寮の耐震化工事が完了
2011(平成 23)年 4 月	短大の生活情報専攻を「生活総合ビジネス専攻」に名称変更

2011(平成 23)年 4 月	鈴木賢二長崎女子短期大学附属幼稚園第 11 代園長に就任
2011(平成 23)年 10 月	学園創立 115 周年記念演奏会―掛屋剛志ピアノコンサート―
2012(平成 24)年 9 月	(財)短期大学基準協会第三者評価評価委員 4 名が現地調査
2013(平成 25)年 3 月	(財)短期大学基準協会第三者評価 2 回目の「適格」認定
2013(平成 25)年 4 月	小野良介第 15 代校長に就任
2013(平成 25)年 8 月	高校龍踊部が全国総文祭優秀校東京公演に県代表として出場
2013(平成 25)年 9 月	短大トイレ全面改修工事完了
2014(平成 26)年 4 月	浦川末子第9代学長に就任
2014(平成 26)年 4 月	長崎女子短期大学生活科学科を生活創造学科に名称変更、併せて専攻を廃止しコース制に改組(栄養士コース定員減 80→60)
2014(平成 26)年 4 月	長崎女子高等学校の入学定員減(170→150)
2015(平成 27)年 4 月	長崎女子高等学校「普通科総合選択制」導入
2015(平成 27)年 6 月	長崎女子高等学校進入道路工事着工
2015(平成 27)年 7 月	文部科学省運営調査
2015(平成 27)年 12 月	長崎女子高等学校耐震化改築工事に伴う校舎解体工事に着手
2016(平成 28)年 4 月	玉島健二第 10 代学長に就任
2016(平成 28)年 4 月	長崎女子高等学校耐震化改築工事(第一期工事)着工
2016(平成 28)年 6 月	長崎女子高等学校進入道路工事完了
2016(平成 28)年 12 月	長崎女子高等学校耐震化改築工事(第一期工事)完了
2017(平成 29)年 11 月	長崎女子高等学校耐震補強工事(第二期工事)完了
2018(平成 30)年 3 月	短大が文部科学省「平成 29 年度私立大学等改革総合支援事業」(タイプ①・タイプ⑤)に採択される
2018(平成 30)年 3 月	長崎女子短期大学入学定員 40 名減(生活創造学科介護福祉士コース募集停止)
2019(平成 31)年 3 月	短大が文部科学省「平成 30 年度私立大学等改革総合支援事業」(タイプ①・タイプ⑤)に採択される
2019(平成 31)年 3 月	長崎女子短期大学生活創造学科「介護福祉士コース(入学定員 40 名)」の 2 年生が卒業し、同コースの廃止が完了した これにより入学定員は、生活創造学科は栄養士コース 60 名、ビジネス・医療秘書コース 40 名、幼児教育学科 100 名で、計 200 名となる
2019(平成 31)年 3 月	原田延介第 3 代理事長が辞任
2019(平成 31)年 4 月	原田雄司第 4 代理事長に就任

2020(令和2)年3月	(財)短期大学基準協会の認証評価において3回目の適格認定
2020(令和2)年3月	短大が文部科学省「令和元年度私立大学等改革総合支援事業」(タイプ①・タイプ③)に採択される
2020(令和2)年3月	短大と長崎明誠高等学校との「教育活動の充実・推進等に関する連携協定」が締結される。
2020(令和2)年4月	長崎女子高等学校の入学定員減(150→125)
2020(令和2)年4月	長崎女子短期大学生活創造学科の令和3年度入学生からの入学定員を栄養士コース(60→40)、ビジネス・医療秘書コース(40→30)と改める。
2020(令和2)年11月	短大と長崎県との「若者の県内定着促進等に係る連携協定」が締結され、「長崎県内企業・事業所魅力発見事業」に取り組む。
2021(令和3)年2月	短大と長崎県中小企業家同友会との「包括連携協定」が締結される。
2021(令和3)年3月	短大が文部科学省「令和2年度私立大学等改革総合支援事業」(タイプ③)に4年連続採択される。
2023(令和5)年4月	橋本剛理事が副理事長に就任
2024(令和6)年3月	原田雄司第4代理事長が辞任 (橋本剛副理事長が第5代理事長として令和6年4月1日就任)
2024(令和6)年4月	橋本剛第5代理事長、第11代学長に就任 後藤慶太第16代校長に就任 大原万里亜第13代園長に就任
2025(令和7)年3月	短大が文部科学省「令和6年度私立大学等改革総合支援事業」(タイプ①)に採択される。また、同月、短大は、西九州短期大学部及び長崎短期大学とともに共創プラットフォームを形成し、「少子化社会時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援(メニュー2)」に採択される。

IV. 今後の課題について

入学年齢人口が減少を続け、微増を続けていた大学進学率も横ばいになりつつ中、学園の存続・発展をいかにして図っていくかが大きな課題となる。何より、短期大学、高等学校、幼稚園を擁する総合学園としての特長を活かして相互の連携を一層強化し、地域社会・経済社会での存在感を高めていかなければならない。

学生・生徒数確保が厳しい中、財務面においては、学生・生徒数をどのように確保し

収入を安定させるか、また収入の範囲内で経費支出をどのように配分するかの観点から収支のバランスをいかに維持していくかが引き続き重要な課題である。

短期大学においては、学生募集について全体でみても同数、各学科・コースでもほぼ横ばいとなり、前年度同様、入学定員を下回る厳しい結果となった。今後は、令和7年度からリニューアルした地域未来創生コースの存在感を高め、周知をはかつていくとともに、デジタル化・多様性への理解促進といった社会変化を捉えて、少人数教育の充実、地域経済社会との連携強化、グローバル化推進等を進めながら、本学独自のきめ細かい指導・支援体制と各学科・コースの特色ある取組みの周知等の情報発信を積極的に取り組んでいく。

高等学校における生徒募集は、部活動関係でてこ入れを図ったことによる入学者増の実績が見られたが、今後の入学年齢人口の減少を考慮すると、厳しい状況は続くと思定される。今後は、普通科総合選択制授業におけるカリキュラムを含む教育活動全般、中学校訪問・オープンスクールなどの募集活動等の見直しを図りながら、SNS等を活用した広報活動を積極的に取り組む。部活動においては、寮の存在という強みを生かし、市外県外からの入寮生徒を確保するとともに、優秀な指導者の確保・育成に取り組む、強化を図る。また、令和7年度から始まったトータルビューティーコースについて、広報活動を引き続き行い、認知の広がりを図ることを通じて、志望者の確保に注力する。

幼稚園においては、短大の附属幼稚園としての特色の維持向上を図りながら、幼稚園の教育機能と保育園の保育機能の両方の良さを併せ持つ認定こども園への移行を目指した手続きを進める。また、幼稚園の良さを知ってもらうため昨年度より始めた「移動幼稚園」の取組みなど園の魅力増進に努め、広報活動として SNS 等あらゆるメディアを活用した周知を積極的に行っていく。